ミガロ. テクニカルセミナー

【セッションNo. 3】

知って得する! 現役ヘルプデスクが答えるDelphiテクニカルエッセンス7.0

株式会社ミガロ. RAD事業部 技術支援課 吉原 泰介



6 IBM i Company 本文書の一部または全部の転載を禁止します。本文書の著作権は、著作者に帰属します。

ミガロ. テクニカルセミナー

【アジェンダ】

Q1. OpenOfficeOrgを利用するには?

Q2.メール送信機能を作成するには?

おまけ資料: メール関連補足



ミガロ.テクニカルセミナー

■Q1. OpenOfficeOrgを利用するには?



DelphiからOpenOfficeをExcelのように利用することは できますか?



OpenOfficeのCalcもOLEで操作することができるので、 Excelと同様にセル編集やファイル出力といった実装を することができます。 またExcelにはないPDF出力などの便利な機能も利用 することができます。

■Q1. OpenOfficeOrgを利用するには?

OpenOffice(正式名称: OpenOffice.org)とは オープンソースのオフィスソフトの一つ。 Microsoft社の「Microsoft Office」と高い互換性があり、 LinuxやWindowsなど様々なOSで動作する。 オープンソースソフトのため、誰でも自由に無償で利用することが でき、また、興味があれば開発に参加することもできる。 (IT用語辞典引用)

ja: OpenOffice.org 日本語プロジェクト http://ja.openoffice.org/



■Q1. OpenOfficeOrgを利用するには?

OpenOfficeで使用できる主な機能 Writer ワープロソフト 数式作成ソフト Math 図形描画ソフト 表計算ソフト Calc Draw Impress プレゼンテーションソフト データベースソフト Base 新期 1 - OpenOffice.org Cal ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 挿入(I) 書式(O) 今回は表計算のCalcを利用 見た目も操作もほぼMicrosoftのExcelと同じです。

ファイル拡張子は.odsです。xlsやxlsxも読み込めます。 無償で使うことができますが、もちろんオープンソース なので正式な製品サポートがあるわけではありません。

5

ミガロ.テクニカルセミナー

■Q1. OpenOfficeOrgを利用するには?

MIG

以降のDelphiからのCalc操作のサンプルは OpenOffice.org 3.2.1をインストールした環境での動作です。

🏩 OpenOffice_C 🗖 🗖 💌	1 - OpenOffice.org Calc	
基本操作	ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 挿入(I) 書式(O) ツール(T) データ(D) ウィンドウ(<u>W)</u> ヘルグ
起動		
終了		🔁 test. pdf - Adobe Reader
		ファイル(E) 編集(E) 表示(Y) 文書(D) ツール(I) ウィンドウ(W) ヘルブ(H) ×
編集操作		48.3% - → 1 / 1 ⊙ ⊙ 48.3% - →
セルの書込み	2 Delphiテクニカルエ・	使 索▼
フォント変更	3 4	▲ ★ 7月79=50×42+-
事線を引く	5 6 「▲ ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●	Delphiテクニカルエッセンス
出力操作	シート1/3 標準 標準 合計=0 0	
保存		
Fycel保存	サンプルは説明のために	
	通常1ボタンで行う処理を分割しています	すが、
PDF保存	主際のシステムではこれらをCalc(Exce	
印刷	ニートボール カオス - レジタ いっす	
	夜小ビッに山刀ッることが多いです。	

■Q1. OpenOfficeOrgを利用するには?

今回のサンプルでは処理をボタンで分割しているので サービス、ファイル関係の変数はグローバルで定義します。

Calc操作を行うための共通変数・関数(ソース)

private

vOpenOffice : Variant; //サービスマネージャ
vStarDesktop: Variant; //サービス
vDocument : Variant; //ドキュメント
vSheet : Variant; //シート
function dummyArray: Variant; //空プロパティ配列設定用

//空のプロパティ配列を返却 function TForm1.dummyArray: Variant; begin Result:= VarArrayCreate([0, -1], varVariant); end;

■Q1. OpenOfficeOrgを利用するには?

CalcのAPIでのPropertyValue

 Calcの操作上で使用するAPIのパラメータにはPropertyValueという 構造体がよく使われます。このパラメータは、ドキュメントのオープンと作成 に対するさまざまなオプションを OpenOffice.org に提供します。

PropertyValue 構造体には、個々のオプションごとに オプション名(Name)と設定値(Value)をセットで格納します。

ファイル保存のAPIを利用する例
//パラメータ用プロパティ配列生成
vaProperties := VarArrayCreate([0, 0], varVariant);
//プロパティ用オプション生成
vProperty:= vOpenOffice.Bridge_GetStruct('com.sun.star.beans.PropertyValue');
//プロパティ用オプション値設定
vProperty.Name := 'FilterName';
vProperty.Value := 'MS Excel 97';
//オプション内容をプロパティ配列に設定
vaProperties[0] := vProperty;
//ファイルを保存
vDocument.StoreToURL('file:///' + sFileName, vaProperties);

■Q1. OpenOfficeOrgを利用するには?

CalcのAPIでのPropertyValue(続き)

 ただPropertyValue構造体がパラメータの場合でも、 オプションを特に設定する必要がないのであれば 毎回Var配列を定義するのも面倒なので、先に実装した dummyArrayで代用します。

ファイル保存のAPIを利用する例 //ファイルを保存 vDocument.StoreToURL('file:///' + sFileName, dum	myArray);
	オプション設定が必要ない場合、 dummyArrayで代用する

ミガロ.テクニカルセミナ



■Q1. OpenOfficeOrgを利用するには?

Calcを終了する(ソース)

procedure TForm1.btnCalcEndClick(Sender: TObject); begin	
//サービス終了	「 無題 1 - OpenOffice.org Calc
vStarDesktop.terminate;	ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 挿入(1) 書式(0) ツール(T) データ(
//サービス破棄	🗄 🕶 😕 🔜 👒 🖉 🔜 🖴 🖎 🐺 😹 🖻 🛍 🔹 🛷
vStarDesktop := unassigned;	■ MS Pゴシック ▼ 10 ▼ B / U
//サービスマネージャ破棄	
vOpenOffice := unassigned;	
end;	
	2 Delphiテクニカルエッセンス
Calcでセル値を編集する(ソース)	4 5 6 ((())) (()) () () () () ()
procedure TForm1.btnCalcCellSetClick(Sender: TObject);	シート1/3 標準 標準 * 合計=0 ⊖ ◆
begin //セルに値を代入 vSheet.getCellRangeByName('C2').String := Delphiテク: end;	ニカルエッセンス';
セル ちゃらし アフクシフ	
100% IBM i Company	本文書の著作権は、著作者に帰属します。

■Q1. OpenOfficeOrgを利用するには?

Calcでフォントを変更する(ソース)



■Q1. OpenOfficeOrgを利用するには?

Calcで罫線を引く(ソース)



シート1/3

煙淮

標準 *

合計=0 🕞

⊕ 100%

■Q1. OpenOfficeOrgを利用するには?

Calcでファイルを保存する(ソース)



■Q1. OpenOfficeOrgを利用するには?

Calcでxls保存する(ソース)



ファイル(E) 編集(E) 表示(Y) 文書(D) ツール(I) ウィンドウ(W) ヘルプ(H) × 🔬 🗸 🌾 👆 1 / 1 💿 🖲 48.3% 🗸 拱 🛃

🔁 test.pdf - Adobe Reader

H.

■Q1. OpenOfficeOrgを利用するには?

CalcでPDF保存する(ソース)

1 1 1



16

■Q1. OpenOfficeOrgを利用するには?

Calcで印刷する(ソース)

```
procedure TForm1. btnCalcPrintClick(Sender: TObject);
var
 vaProperties : Variant; //プリンタ指定パラメータ用<配列>
 vProperty : Variant; //プリンタ指定オプション用<配列値>
begin
 //パラメータ用プロパティ配列生成
                                                                     プリンタを
 vaProperties :=VarArrayCreate([0, 0], varVariant);
 //プロパティ用オプション生成
                                                                     指定
 vProperty := vOpenOffice.Bridge_GetStruct('com.sun.star.beans.PropertyValue');
 //プロパティ用オプション値設定
 vProperty. Name := 'Name';
 vProperty. Value := 'FinePrint' : //設定したいプリンタ名
 //オプション内容をプロパティ配列に設定
 vaProperties[0] := vProperty;
 //プリンター指定
 vDocument.setPrinter(vaProperties);
 //印刷
                                       ディフォルトプリンタへの印刷
 vDocument.print(dummvArray);
                                        であればこれだけ
end:
```

■Q1. OpenOfficeOrgを利用するには?

Calc上での操作のコーディングが分からないときは・・

Excelと同じように操作をマクロで記録できるので、
 マクロの中身を見てコーディングの参考にできます。
 アータ(D) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)
 第200 ウィンドウ(W) ヘルプ(H)



■Q1. OpenOfficeOrgを利用するには?

Calc上での操作のコーディングが分からないときは・・

<u>ツール(T)</u> データ(D) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)	REM **	*** BASIC *****
 ※ スペルチェック(S) 言語(B) トレース(D) デ ゴールシーク(G) 	। ॡ ॡ । ा ॰ थ्रि ॰ ▲ ॰ । ॡ ॡ । ा ॰ थ्रि ॰ ▲ ॰ rem defi dim docu	ne variables ment as object
ソルパー(Y) G H シナリオ(E) G H ドキュメントの共有(H) H H ドキュメントの結合(T) H H ドキュメントの保護(P) H H セルの内容(N) H H	I J K dim dispa rem rem get documer dispatch rem dim args args1(0). args1(0).	tcher as object access to the document it = ThisComponent.CurrentController.Frame er = createUnoService("com.sun.star.frame.DispatchHelper") 1(0) as new com.sun.star.beans.PropertyValue Name = "StringName" Value = "あいうえお"
 ■ キャラリー(G) 皿 メディアプレイヤー(Y) マクロ(M) ・ マクロの記録(A) ・ マクロを実行(U)… ・ マクロの管理(0) 	dispatch rem dispatch OpenOffice.org Basic(B):	r.executeDispatch(document, ".uno:EnterString", "", 0, args1())
⑤マクロの管理から 保存したマクロを開く	 (6)操作 コーラ 考にて	乍のマクロが ディングの参 できます
MICINI 100% IBM i Company *	文書の一部または全部の転載を禁止しま	す。本文書の著作権は、著作者に帰属します。 19

ミガロ. テクニカルセミナー

■Q2.メール送信機能を作成するには?



Delphi/400のアプリケーションからメールを送信 したいのですが、どういった実装が必要でしょうか?



メールを送信する場合、IndyのTIdSMTPコンポーネントを 使用すると比較的簡単にメール送信機能を実装する ことができます。 ※ただしメールはメールサーバや使用するメーラーなど 環境によってエンコードなどの調整が必要です。

■Q2.メール送信機能を作成するには?

メール送信サンプルプログラム概要



ミガロ. テクニカルセミナー

■Q2.メール送信機能を作成するには?

メール送信の仕組み

MIG



■Q2.メール送信機能を作成するには?

使用するIndyコンポーネント①

MIG



100% IBM i Company 本文書の一部または全部の転載を禁止します。本文書の著作権は、著作者に帰属します。

ミガロ. テクニカルセミナー

■Q2.メール送信機能を作成するには?

使用するIndyコンポーネント②



メールの内容を詳しく制御するための コンポーネント

IdMessage1

MIG

オブジェクト インスペクタ		×			
IdMessage1 TIdMessage		-	NewsCrews	IdMessage1 (TStviews)	
プロパティ イベント	IdMessage1:	TIdMessage	NoDecode	False	-
AttachmentEncoding	MIME		NoEncode	E False	
			Organization		
BeeList	(TIdEMailAddressList)		Priority	mpNormal	-
Body	(TStrings)	太文	ReceiptRecipient	(TIdEMailAddressItem)	
CCList	(TIdEMailAddressList)		Recipients	(TIdEMailAddressList)	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
CharSet			References		达信允
ContentDisposition		文字	ReplyTo	(TIdEMailAddressList)	
ContentTransferEncoding			🗉 Sender	(TIdEMailAddressItem)	
ContentType		セット	Subject		
ConvertPreamble	🔽 True		Tay		
Date			UseNowForDate	True	
Encoding	meDefault				
ExceptionOnBlockedAttachments	False			21	
ExtraHeaders	(TIdHeaderList)				
E From	(TIdEMailAddressItem)	—— 送信	≣ ┯ 📕		
FromList	(TIdEMailAddressList)				
InReplyTo					

■Q2.メール送信機能を作成するには?

テキストのメールを送信する(ソース)





■Q2.メール送信機能を作成するには?

Delphi/400からテキストメールを送信



■Q2.メール送信機能を作成するには?

Delphi/400からテキストメールを送信

V2009以降



00% IBM i Company 本文書の一部または全部の転載を禁止します。本文書の著作権は、著作者に帰属します。

■Q2.メール送信機能を作成するには? テキストのメールを送信する(ソース) V2009以降 ?テクニカルセミナーセッション? @@bur | × 沈 From tec@migaro.co.jp <tec@migaro.co.jp> Τо voshiwara@migaro.co.jp 日付 2010年11月22日15:07 ?テクニカルセミナーセッション? procedure TfrmQ1.btmMailSendClick(Sender: TObject); 知って得する 4 begin ?Delphiテクニカルエッセンス7.0? trv IdSMTP1. Host := 'smtp. XXXXX. XX. XX'; //SMTPサーバ名

Delphi/400 V2009以降は IdSMTP1.Port := 25; //SMTPポート番号 Unicodeが標準なので //SMTPユーザー名/ IdSMTP1.Username := 'ユーザー名': CharSetをUTF-8で設定 //SMTPパスワー IdSMTP1. Password := 'パスワード'; ④本文部分が改善 IdSMTP1. Connect: //SMTP接続 IdMessage1. Clear; IdMessage1. ContentType := 'text/plain'; // コンテンツタイプ 'UTF-8': IdMessage1. CharSet // 文字セット 1= // BASE64 エンコーディング IdMessage1. ContentTransferEncoding := **'BASE64'**;

00% IBM i Company -部または全部の転載を禁止します。本文書の著作権は、著作者に帰属します。

V2009以降

■Q2.メール送信機能を作成するには?

テキストのメールを送信する(ソース)



■Q2.メール送信機能を作成するには?

Delphi/400からテキストメールを送信

V2009以降



100% IBM i Company 本文書の一部または全部の転載を禁止します。本文書の著作権は、著作者に帰属します。

■Q2.メール送信機能を作成するには?

メールにファイルを添付する

🔄 【1】メール送信機能を作成するに	=(t ?		
送信元アドレス	tec@migaro.co.jp		
送信先アドレス	yoshiwara@migaro.co.jp		■ 開く ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●
タイトル	~ テクニカルセミナーセッション~		Ere * 100007/000 Bit State Bit State DeleX1/2001 (State DeleX1/2001 (State <td< th=""></td<>
本文	知って得する ~Delphiテクニカルエッセンス7.0~		 ライブラリ ドキュメント ビクチャ ビクチャ ビデオ ミュージック ニンピューター OS (C:) Rad (WOskServer) (R:) htdocs (WDNS3-DEVLOP) (X:) - < ファイルと名(N): delphi400vD.pdf ゴンセル
添付ファイル	C:¥Test¥delphi400vD.pdf		
		-لا 🖂	<mark>-ル送信</mark>

■Q2.メール送信機能を作成するには?

添付ファイルをつけたメールを送信する(ソース)



■Q2.メール送信機能を作成するには?

添付ファイルをつけたメールを送信する(ソース)

```
if edtFile Text \Leftrightarrow '' then
   begin
     IdMessage1.ContentType := 'multipart/mixed'; // コンテンツタイプ
     //添付ファイルの設定(添付するTIdMessageと添付ファイルパスでCreate)
     with TIdAttachmentFile. Create (IdMessage1. MessageParts, edtFile. Text) do
     begin
       FileName :=ExtractFileName(edtFile.Text);
       ContentType := 'application/octet-stream';
       ContentTransfer := 'base64':
                                                              TIdAttachmentFileで
     end:
                                                              添付ファイルをCreate
   end:
   IdSMTP1. Send(IdMessage1); //メールの送信
                                                             する
   ShowMessage ('メール送信完了しました');
 except
   ShowMessage('メール送信中にエラーが発生しました');
 end:
  IdSMTP1.Disconnect; //SMTP切断
end;;
```

ミガロ. テクニカルセミナー

■Q2.メール送信機能を作成するには?

主なContentType(メールの形式) ※他にも形式はあります。

text/plain

文字テキストのみのメール。基本中の基本のメール形式。

text/html

文字拡大、強調、色変更、背景設定などhtmlと同様に装飾が可能な形式。

multipart/mixed

複数のメール形式が混在可能な形式。添付ファイルなどでよく使用される。

■Q2.メール送信機能を作成するには?

メールにファイルを添付する



ミガロ. テクニカルセミナー

■Q2.メール送信機能を作成するには?

もちろん同じ作り方でWEBアプリにも活用可能

MIG

	er 🗢 🕞	
送信元		
tec@migaro.co.jp)migaro.co.jp	
送信元 yoshiwara@migaro.co.ip	iwara@migaro.co.jp トル ニカルセミナーセッション3	
タイトル タイトル	て得する hiテクニカルエッセンス7.0	
テクニカルセミナーセッション3 本文	メール送信	
知って得する Delphiテクニカルエッセンス7.0	► + m G	Safariを使って SmartPhoneで動かす なんてことも!

ミガロ. テクニカルセミナー

おまけ資料

MIG 100% IBM i Company 本文書の一部または全部の転載を禁止します。本文書の著作権は、著作者に帰属します。

ミガロ. テクニカルセミナー

■おまけ資料(メール関連補足)

メール補足 SSLを利用したい場合

SSLとは

Netscape Communications社が開発した、インターネット上で 情報を暗号化して送受信するプロトコル。(IT用語辞典引用)



ミガロ.テクニカルセミナー

■おまけ資料(メール関連補足)

メール補足 SSLを利用したい場合

POP3/SMTP に SSL を利用する場合には、 <u>"Indy用 OpenSSL DLL</u>" が別途必要となります。

DLLは以下のURLからダウンロードすることができます。 http://indy.fulgan.com/SSL/ アーカイブを解凍して得られる DLL をEXEと同じフォルダ に配置して下さい。 (Libeay32.dllとssleay32.dll)





■おまけ資料(メール関連補足)

メール補足 SSL認証を行ってメールを送信する(ソース)

usesにIdSSL0penSSLを追記

```
procedure TfrmQ1.btmMailSendClick(Sender: TObject);
var
 SSL: TIdSSLIOHandlerSocketOpenSSL; //SSLクラス
begin
 try
   try
     IdSMTP1.Host := 'smtp.XXXX.XX.XX'; //SMTPサーバ名

      IdSMTP1. Username := 'ユーザー名';
      //ポート番号

      IdSMTP1. Password := 'パスロード'

     SSL := TIdSSLIOHandlerSocketOpenSSL.Create; //SSLクラスを生成
     SSL. Host := IdSMTP1. Host;
                                               //ホスト設定
     SSL. Port := IdSMTP1. Port;
                                               //ポート設定
     SSL. Destination := SSL. Host + ':' + IntToStr(SSL. Port); //ホスト:ポート
                                                               //IdSMTPのハンドラに設定
     IdSMTP1. IOHandler := SSL:
     IdSMTP1.UseTLS := utUseExplicitTLS;
     IdSMTP1. Connect;
                                              //接続
     IdMessage1. Clear;
                                             //メッセージクリア
                                     := 'multipart/mixed'; // コンテンツタイプ
     IdMessage1. ContentType
                                       := 'UTF-8';
     IdMessage1. CharSet
                                                              // 文字セット
     IdMessage1.ContentTransferEncoding := 'BASE64':
                                                               // BASE64 エンコーディング
```

■おまけ資料(メール関連補足)

メール補足 SSL認証を行ってメールを送信する(ソース)

```
// 送信元のメールアドレス
     IdMessage1. From. Address
                                      := edtSNDAdress.Text;
                                                          // 送信先のメールアドレス
     IdMessage1. Recipients. EMailAddresses := edtRCVAdress. Text;
                                      := edtTitle.Text;
                                                           // タイトル
     IdMessage1. Subject
     IdMessage1. Body. Text
                                      := memText.Text;
                                                           // 本文
     if edtFile Text \langle \rangle '' then
     begin
       //添付ファイルの設定
       with TIdAttachmentFile.Create(IdMessage1.MessageParts.edtFile.Text) do
       begin
        FileName :=ExtractFileName(edtFile.Text);
        ContentType := 'application/octet-stream';
        ContentTransfer := 'base64':
       end:
     end:
     IdSMTP1. Send(IdMessage1); //メールの送信
     ShowMessage('メール送信完了しました');
   except
     ShowMessage ('メール送信中にエラーが発生しました');
   end;
 finally
   SSL.Free: //SSLクラスを破棄
 end:
 IdSMTP1.Disconnect; //SMTP切断
end;
```

■おまけ資料(メール関連補足)

メール補足 Delphi/400のバージョンとQuickSendメソッド

TIdSMTPコンポーネントにはQuickSendという簡易メール送信メソッドがあり、
 次のような簡単なコーディングで送信が可能です。



ミガロ. テクニカルセミナー

■おまけ資料(メール関連補足)

メール補足 jconvert.pasを利用したい場合

V2009以降

jconvert.pas(フリーの文字コード変換ライブラリ) 主にメール機能の文字変換などで過去のバージョンで よく使用されていましたが、ダウンロードができるソースは古いため V2009以降の環境で使用すると正しく動作しません。 以下のような点は修正する必要がありますのでご参考ください。

